

科 目	週 時 数
現代文B	2 時間

目 標	近代以降のさまざまな文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、国語力の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。	
育 て たい 力	知識 技能	語句の意味、用法を的確に表現し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てることができる。
	思考 判断 表現	構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価するとともに、書き手の意図や人物、情景、心情の描写などを的確に捉え、表現を味わうことができる。また、目的や課題に応じて収集した情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現することができる。
	主体性 協働性 多様性	さまざまな文章に触れることを通して多様な考え方を理解するとともに、自分の考えを深めたり発展させたりすることができる。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学期	教科書所収文章の読解 ・「世界をつくり替えるために」 ・「ミロのヴィーナス」 ・「山月記」 ・「相手依存の自己規定」 ・「おじいさんのランプ」 ・「こころ」 ・その他、適宜問題演習を行う。	・評論を読んで、筆者の着眼点や論旨の展開の特色を理解する。 ・長編小説に描かれた場面、作中人物の心理などを的確に読み取る。 ・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上をはかる。
2 学期	教科書所収文章の読解 ・「地図の想像力」 ・「言語と記号」 ・「スペインタイルの家」 ・「鏡の中の現代社会」 ・「クレールという女」 ・その他、適宜問題演習を行う。	・評論を読んで、論じられた問題への関心を持ち、文化や社会について理解を深める。 ・小説における作中人物の性格や心理を読み取り、人間の内面の奥深さを味わう。 ・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上を図る。

授業の形態	一斉授業・グループ学習
教科書	『精選現代文B』（東京書籍）
副教材	生きる現代文キーワード（駿台文庫） 新実践入試漢字演習（尚文出版）
評価の方法	定期試験と平常点（小テスト、提出物、授業態度等）による総合評価
備考	漢字語句の小テストを適宜実施

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	的確な授業理解のもと、学習の手引の内容を自らのことばで明快に他者に説明することができる
	60%	授業内容を的確に理解することができ、学習の手引の問いを解ける

※80%＝80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
古典B	3 時間

目 標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。	
育 っ て たい 力	知識 技能	古典に用いられている語句の意味・用法及び文の構造・文章の構成に即して内容を的確に捉え、「読む」能力の一層の充実を目指す。
	思考 判断 表現	人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確に捉え、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。
	主体性 協働性 多様性	人間の生き方・考え方などについて話し合ったりまとめたりすることで、古典に親しみ、言語文化に対する関心を深め、豊かな自己形成を図る。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学期	教科書所収文章の読解 <ul style="list-style-type: none"> ・『枕草子』「宮に初めて参りたるころ」 ・『韓非子』「不死之薬」 ・『十八史略』「完璧而帰」 ・『建礼門院右京大夫集』 ・『史記』「鴻門之会」「四面楚歌」「項王自刎」 ・『大鏡』「道長の左遷」「花山天皇の出家」 ・『源氏物語』「光源氏の誕生」「若紫」 	(古文) <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情を的確に読み取る。 ・テキストを著した作者のものの感じ方、考え方を捉える。 (漢文) <ul style="list-style-type: none"> ・語句や句法の意味、用法に注意し、内容を正しく理解する。 ・登場人物と場面の展開を整理し、話の流れを正確に読み取る。
2 学期	教科書所収文章の読解 <ul style="list-style-type: none"> ・『源氏物語』「車争ひ」 ・『論語』「礼之用、和為貴」 ・『孟子』「無恒産無恒心」 ・『老子』「無為之治」 ・『孫子』「兵形象水」 ・『墨子』「兼愛」 ・『十六夜日記』「駿河路」「月影の谷」 ・『落窪物語』「落窪の君」「姫君の苦難」 ・『無名草子』「清少納言」「紫式部」「文」 	(古文) <ul style="list-style-type: none"> ・本文を正確に読み、内容を的確にまとめる。 ・作品の背景を理解し、資料を適切に利用して内容を理解する。 (漢文) <ul style="list-style-type: none"> ・語句や句法に注意しながら内容を理解したうえで、作品について他者に説明できるようにする。

授業の形態	一斉授業・グループ学習
教科書	『精選古典B 古文編』(東京書籍) 『精選古典B 漢文編』(東京書籍)
副教材	改訂版 流れと演習 新日本文学史(京都書房) 新訂国語便覧 第六版(京都書房) これからの古典文法(尚文出版) 漢文学習必携 二訂版(京都書房) 理解を深める 核心古文単語351(尚文出版)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	文語文法・漢文句法の小テストを都度実施

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	文法書に用いられた文法事項に付随する内容への理解、文法書内容の論理的理解
	60%	文法事項の習得、文法書内容の概観

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
国語研究①(設定)	3 時間

目 標	文章の内容を的確に理解し、問いに対する自分の意見を明確に持ちつつそれを根拠に基づいて論理的に表現することができる。	
	知識 技能	さまざまなテーマについて考えることで、社会で何が起きているかを知る。 文章表現を学び、自分の意見をわかりやすく正確に伝えるための書き方を身につける。
	思考 判断 表現	論理的に捉え的確に表現するとともに、実社会の視点から「どうすればよいのか」、新たな考えを創造する力を高める。
	主体性 協働性 多様性	他の人の意見に触れることを通して多様な考え方を理解するとともに、自分の価値観を形成することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	基本的な知識を活用して発展的な文章に触れ、現代文分野の文章の要約の仕方や設問へのアプローチの仕方を習得する。	課題文の的確な読み取りができているかを確認する。 要約文を的確かつ迅速に完成させることができる。 他テキストとの比較により、扱われている内容を俯瞰的に捉えることができる。
2 学期	基本的な知識を活用して発展的な文章に触れ、現代文分野の文章の要約の仕方を再確認しつつ、解答の精度の向上に向けた取り組みを実践する。	発展的な内容の文章を読み、記述解答の仕上げ方を確認する。 答案の他者採点をしながら、解答に必要なポイントを確認し、自らの解答のよりよい作成に活かすことができる。

授業の形態	一斉授業, グループ学習
主たる教材	標準編 現代文読解問題(駿台文庫)
副教材	生きる現代文キーワード(駿台文庫)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価
備考	キーワードの小テストを適宜実施

到達 目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	素材文から新たに学んだ視点や読解語を日常生活に応用して使うことができる
	60%	「現代文読解問題」、「完成現代文」の問いの意図を理解し、答案を作ることができる

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
世界史B	3 時間

目 標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。	
	知識 技能	世界史の諸事象についての基本的知識を理解する。またそれぞれの事象を関連付けて考察する技能を身につける。
	思考 判断 表現	世界史の諸事象から課題を見出し、それを多角的に考察する。
	主体性 協働性 多様性	世界史を通して国際社会の諸事象に対する関心や課題意識を高め、それを意欲的に考察するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を持ち責任を果たそうとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	序章 先史の世界 第1章 オリентと地中海世界 第2章 アジア・アメリカの古代文明 第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成 第4章 イスラーム世界の形成と発展	人類が自然環境に適応しながら各地域で特色ある文明を築き、やがてそれらをもとに、より大きな地域世界を形成したことを理解する。
2 学期	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開 第7章 アジア諸地域の繁栄 第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 第9章 近世ヨーロッパ世界の展開	アジア諸地域の繁栄とヨーロッパ世界の拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層発展したこととともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパ諸国の進出により、世界の構造化が進み、社会の変革が促されたことを理解する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習
教科書	『詳説世界史B』(山川出版社)
副教材	新世界史要点ノート[標準編](啓隆社) アカデミア世界史(浜島書店)
評価の方法	定期試験と平常点(復習テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価
備考	調べ学習を随時取り入れる

到達 目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	単元毎の振り返りを確実にを行い、各テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な教材を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	教科書の歴史的事象を関連付けて理解し、説明出来る
	60%	教科書の重要語句の関連性を理解出来る

※80%=80点を取るための目安。

科目	週 時 数
日本史B	3 時間

目標	我が国の歴史の展開を世界史的視野に立って総合的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。	
育てたい力	知識技能	我が国の歴史の展開についての基本的な事項を世界史的視野に立ち、我が国を取り巻く国際環境と関連付けて理解する。
	思考判断表現	我が国の歴史の展開から課題を見つけ、多面的・多角的に考察するとともに国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。
	主体性協働性多様性	我が国の歴史の展開に対する関心を高め、主体的に追究することを通して、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	1章 日本文化のあけぼの 2章 律令国家の形成 3章 貴族政治と国風文化 4章 中世社会の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・農耕社会の発達と、それによって生まれた階級社会の歴史的意義を、縄文文化と対比しながら理解する。 ・律令国家建設の歩みが進められ、古代国家が現出して天平文化が開花する過程と、平安京遷都を始めとする律令再建の動きを理解する。 ・律令体制が動揺し、政治面では摂関政治、文化面では国風文化が開花するなど、古代から中世への過渡期を捉える。 ・鎌倉幕府成立から執権政治の確立を経て、得宗専制化にいたる過程を理解する。
2 学期	5章 武家社会の成長 6章 幕藩体制の確立 7章 幕藩体制の展開 8章 幕藩体制の動揺	<ul style="list-style-type: none"> ・南北朝動乱期に守護が成長し、室町幕府の将軍と対立・妥協をおこなったが、その後、応仁の乱を契機に下克上の風潮のもと戦国時代へと移行することを理解する。 ・徳川氏が幕藩体制を固め、対外的にも鎖国体制を完成させることで、近世社会が成立していった様子を理解する。 ・幕藩体制の動揺の要因を理解し、政局の動きに注目し、江戸幕府の滅亡にいたるまでの流れを考察すると同時に、民衆の動きにも着目する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習 ICTを活用した学習
教科書	『詳説日本史B』(山川出版社)
副教材	詳説日本史図録 第8版(山川出版社) 時代と流れで覚える！ 日本史B用語(文英堂)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	時期の特色、教科書の語句、事項の因果関係、史資料の完全理解
	60%	時期の特色、教科書の語句、事項の因果関係、史資料の理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
地理B	3 時間

目 標	現代世界の自然環境、資源、産業などに関する地理的事象の分布やその要因などについて体系的に考察するとともに、それらの学習で習得した知識、概念や地理的技能を活用して、世界諸地域の地域的特色を多面的・多角的に考察する。また、現代世界の地理的事象について自分の考えを他者と共有し、発信する力を養う。	
	知識 技能	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身につける。また、諸資料を通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身につける。
	思考 判断 表現	現代世界の地理的事象から課題を見い出し、それを系統地理的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断する。
	主体性 協働性 多様性	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 1章 自然環境 2章 資源と産業	<ul style="list-style-type: none"> 世界の大地形の分布、火山・地震などの活動地域の分布などには特徴があることと、人の生活との関わりについて世界地図を見ながら整理する。 海岸地形やその他の特殊な地形と人間生活との関連について考え、地域開発のあり方や、環境問題との関連を理解する。 世界の気候が、緯度・隔海度・高度・季節風・海流などによって影響を受けていることを理解する。
2 学期	第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 3章 人口、村落・都市 第Ⅰ部 さまざまな地図と地理的技能 1章 地理情報と地図 2章 地図の活用と地域調査	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー・原料資源を生産量・消費量などから各国ごとに比較し、その類似性に気づく。また、日本の状況をそこから考える。 産業革命による社会変革が、現代先進工業国の原点であることを理解する。 工業の発達要素について理解し、その分布には類似性があることを理解する。 世界の村落・都市の成立要因・分類を学ぶ。 都市の機能が経済の発展とともに変化したことを学び、どのような影響を周囲に与えるか理解する。 今後の技術発展によって、より高度な情報を地図上で表現する方法と、有効な活用方法について考察する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習
教科書	『新詳地理B』(帝国書院) 『地歴高等地図』(帝国書院)
副教材	最新地理図表 GEO(第一学習社) 新 地理要点ノート(啓隆社)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	調べ学習を取り入れる

到達 目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	『新 地理要点ノート』の完全理解と大学入試レベルの記述問題を解くことができる
	60%	『新 地理要点ノート』における重要語句の完全理解と付随する図表問題を理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
倫理	2 時間

目 標	青年期における自己形成と人間としてのあり方、生き方について理解と思索を深めるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者とともに生きる主体としての自己の確立を目指す。	
育 っ た い 力	知識 技能	青年期の意義と課題、人生における哲学、宗教、芸術、また現代に生きる人間の倫理的諸課題などについて関心を高め、自己のあり方や生き方について考えながら深く探究することができる。
	思考 判断 表現	生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉などにおける倫理的課題を、自己の課題とつなげて探究する活動を通じて、論理的思考や表現力を身につける。
	主体性 協働性 多様性	現代に生きる人間の倫理的課題について思索し人間としてのあり方、生き方についての自覚を深めるとともに、必要な情報を活用し、倫理的課題について適切に表現することができる。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学 期	第1章 青年期の課題と自己形成 第2章 人間としての自覚	<ul style="list-style-type: none"> 人間の定義や、人生における青年期の位置とその課題について具体的に理解し、どのように青年期としての現在を過ごすかについて考察する。 より豊かな自己実現のためには、生きることについての主体的な思索が必要であることを理解し、源流思想の先哲たちの生き方・考え方を手がかりに、人生の価値追求への関心を高める。 宗教が人生にどのような意味を持つかを考え、世界三大宗教の内容を深く理解する。 美への感動と愛との関連について理解し、芸術の意義について考える。
2 学 期	第3章 国際社会に生きる日本人の自覚 第4章 現代を生きる人間の倫理 第5章 現代の課題を考える	<ul style="list-style-type: none"> 古代日本人の考え方や生き方、風土との関連や言葉の使い方などをもとに、日本人の人間観・自然観について考察する。 真の思想形成のためには、伝統や外来思想をどのように捉えたら良いのか、また日本の世界貢献などについて考察する。 西洋の人間についての考え方の流れをおさえ、ルネサンスや宗教改革運動に始まる近代的な人間尊重の考え方が、自然や社会などに対する見方をも変えたことを理解する。また、理性中心の考え方に対する疑問や科学技術の発達が新たな倫理的課題を出現させていることなどを理解する。 現代の諸課題に対する理解を深め、これから生きる上で何が大切なことかを考察する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『倫理』(数研出版)
副教材	倫理資料集(清水書院)、倫理演習ノート(数研出版)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	ICTの活用、アクティブラーニングを取り入れる

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	『サポートノート倫理』 演習問題・発展問題の完全理解
	60%	『サポートノート倫理』 確認問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
数学Ⅱ	3 時間

目標	微分と積分について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。さらに、発展的な問題に対して、既習事項を基に自ら解決する力を育てる。	
	知識技能	数学的活動を通して、微分と積分における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。また事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決する。
	思考判断表現	数学的活動を通して、微分と積分における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ、論理的に考察し、表現するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考える。
	主体性協働性多様性	自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考え、それを発展させることができる。自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにし、ICTを活用し、説明したり、議論したりすることができる。学習した内容を生活と関連付け、具体的な事象の考察に活用することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	○微分と積分	○指数を実数の範囲まで拡張できることを理解し、活用できる。 ○微分係数、導関数の定義・意味を理解し、計算・活用できる。 ○導関数を用いて、関数の増減および極大・極小を調べ、グラフが描ける。 ○不定積分・定積分について理解できる。 ○定積分によって平面図形の面積が計算できる。
2 学期	○問題演習	○既習事項を活用し、諸問題について研究・考察する。

授業の形態	一斉授業, グループ学習
教科書	『数学Ⅱ Advanced』(東書 数Ⅱ317)
副教材	TOPS 数学Ⅱ+B(東書) チャート式基礎からの数学Ⅱ+B(数研) 改訂版 リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B 受験編 challenge + development (数研)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト・課題の提出物・授業態度等)による総合評価
備考	章ごとに問題演習の時間をとり、応用力を身につけさせる

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の練習問題B, 副教材「TOPS」の完全理解
	60%	教科書の例題・問・問題・練習問題Aの完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
数学B	3 時間

目 標	数列, ベクトルについて理解し, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを積極的に活用する態度を育てる。さらに, 発展的な問題に対して, 既習事項を基に自ら解決する力を育てる。	
	知識技能	数学的活動を通して, 数列, ベクトルにおける基本的な概念, 原理・法則, 用語・記号などを理解し, 基礎的な知識を身につけている。事象を数学的に考察し, 処理する仕方や推論の技能を身につけ, 的確に問題を解決できる。
	思考判断表現	数学的活動を通して, 数列, ベクトルにおける数学的な見方や考え方を身につけ, 事象を数学的に捉え, 論理的に考察するとともに, 過程を振り返り多面的・発展的に考え, 表現できる。
	主体性協働性多様性	自ら課題を見だし, 解決するための構想を立て, 考察・処理し, その過程を振り返って得られた結果の意義を考え, それを発展させることができる。自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにし, ICTを活用し, 説明したり, 議論したりすることができる。学習した内容を生活と関連付け, 具体的な事象の考察に活用することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	○数列	○数列の概念および数列についての基本的な用語の意味を理解する。 ○記号 Σ の意味と性質を理解し, 累乗の和を Σ を用いて表すことができる。 ○階差数列から一般項を求めたり, 数列の和から一般項を求めたりすることができる。 ○帰納的定義について理解し, 漸化式を扱うことができる。数学的帰納法を利用して, 等式などの証明ができる。
2 学期	○ベクトル	○ベクトルを利用して, 平面図形に関するいろいろな問題を考察できる。 ○空間における座標を定め, 空間の点が3つの実数の組として表現できることを理解する。また, 平面と同様に空間においてもベクトルを考えることができることを理解する。 ○空間のベクトルについても内積や位置ベクトルを考えることができることを理解し, いろいろな図形の問題に応用できる。

授業の形態	一斉授業, グループ学習
教科書	『数学B Advanced』(東書 数B317)
副教材	TOPS 数学II+B(東書) チャート式基礎からの数学II+B(数研) 改訂版 リンク数学演習I・A+II・B 受験編 challenge + development (数研)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価
備考	章ごとに問題演習の時間をとり, 応用力を身につけさせる

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で, 応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え, 仲間の学習に貢献し, 仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の練習問題B, 副教材「TOPS」の完全理解
	60%	教科書の例題・問・問題・練習問題Aの完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
化学基礎	2 時間

目 標	化学は物質について学習する教科であることを理解し、化学的な事物・現象に関する基本的な原理・法則を理解するとともに、身の回りの事物・現象を化学的に探究する方法を身につける。	
	知識 技能	基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につけることができる。 化学現象について、学習した知識を基に、定量的かつ定性的に扱うことができる。
	思考 判断 表現	実験結果のデータや表を基にして、化学現象を客観的にとらえることができる。 化学現象について、原子・分子レベルで考え、他者にわかりやすく説明できる。
	主体性 協働性 多様性	目的意識をもって観察、実験を行ない、化学的に探究する能力と態度を身につけることができる。 主体的に課題に取り組むことにより、興味・関心を高めることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 原子の構造と元素の周期表 化学結合 物質と化学反応式 	<ul style="list-style-type: none"> 化学結合のしくみと性質について深く学び、物質の成り立ちを理解する。 原子、分子などの個数をひとまとめとして扱う方法、および、化学反応における量的関係について理解する。 物質の計算を身につけ、化学反応式から物質の過不足や生成する物質の量を求められるようにする。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 酸と塩基 中和反応 酸化還元反応 	<ul style="list-style-type: none"> 酸、塩基の定義について、歴史的な背景を考慮しながら理解し、酸、塩基が私たちの日常生活と深く関わっていることを理解する。 中和滴定の実験を通して、正確な数値を測ることの重要性を理解する。また、器具の使い方を正確に理解する。 身のまわりで起こる多くの反応は、電子のやり取りが重要な役割を果たし、それが酸化還元反応であることを理解する。

授業の形態	一斉授業
教科書	『化学基礎』(数研出版)
副教材	リードα 化学基礎(数研出版)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達 目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	「リードα 化学基礎」の応用問題の完全理解
	60%	「リードα 化学基礎」の基本問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
地学基礎	2 時間

目 標	地学的な事物・現象についての観察、実験等を行い、自然に対する関心や探究心を高め、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。	
育 っ たい 力	知識 技能	火山や地震、気象などの自然現象を正確に理解するとともに、防災への知識など、自然を守り、共存していくために基礎を学ぶ。
	思考 判断 表現	実験や探究活動を通じ、物事を考察していく上で必要な手順や方法を学び、適切に表現できる能力を養う。
	主体性 協働性 多様性	グループ学習などを通じて、主体的に学ぶ姿勢を養い、協働作業の重要性について理解する。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学 期	1. 固体地球とその変動 2. 移り変わる地球	1. 活動する地球に関する探究活動を行い、その学習内容の理解を深めるとともに、地学的に探究する能力を高める。 プレート分布と運動及びプレート運動に伴う大地形の形成について理解する。 2. 地質調査によって得られた様々な地層の情報から、地球の歴史が解明されていった過程を理解し、地球誕生から現在に至る地質時代の出来事を学ぶ。
2 学 期	3. 大気と海洋	3. 大気中で起こる様々な現象を地球規模の視点で学び、合わせて海洋との相互作用で地球環境が保たれていることを理解する。

授業の形態	一斉授業、実験、観察、グループ学習
教科書	『地学基礎』(啓林館)
副教材	セミナー地学基礎(第一学習社)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	「セミナー地学基礎」の基本問題と発展問題の理解、発展課題内容の理解
	60%	「セミナー地学基礎」の基本問題の理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
体育	2 時間

目 標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動の技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。	
	知識技能	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基本的な事項を理解し、知識を身につける。また、自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の技能を高める。
	思考判断表現	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫する。
	主体性協働性多様性	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身につけるとともに、健康・安全に留意して自ら計画的に運動をしようとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	体づくり運動 *組体操、運動会の練習 体育理論 陸上(ハードル) バレーボール ソフトボール	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を通して自分や仲間のからだや心の状態に気づき、からだの調子を整えたり、仲間と楽しく交流する。 ・ハードル走ではスピードを維持した走りからハードルを低くリズムカルに越すことができる。 ・ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 ・ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防を展開する。 ・安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。
2 学期	体育理論 バスケットボール サッカー 卓球 バドミントン	<ul style="list-style-type: none"> ・運動技術と運動技能の違いを知り、それぞれの運動種目に応じた運動技術について理解する。 ・ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 ・ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋める動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。 ・安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。

授業の形態	一斉授業 グループ学習
教科書	『高等学校保健体育』(第一学習社)
副教材	ステップアップ高校スポーツ2021(大修館)
評価の方法	実技試験と定期試験(種目の歴史とルール)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	実技では規定の技能を正確に行う。筆記試験はルールや歴史を理解する。
	②実技テスト	競技の特性を理解し、指示されたポイントを踏まえて取り組み満点を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	規定の服装で授業を受けること
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
保健	1 時間

目 標	心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践できるような意欲を育てる。 現代社会と健康についての課題解決に役立つ知識を身につけ、適切な意思決定と行動選択できる力を育て健康的なライフスタイルを身につける。	
育 っ て たい 力	知識 技能	個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につける。
	思考 判断 表現	個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断する力を育てる。
	主体性 協働性 多様性	個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、生涯にわたって自らの健康を適切に管理する方法などについて意欲的に取り組む。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学期	第2章【生涯を通じる健康】 第1節 生涯の各段階における健康 第2節 保健・医療の制度と機関	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたって健康を保持・増進するために、人生の各段階における健康の危険因子について理解する。 ・思春期の健康課題、性行動について理解を深める。 ・結婚の意義と家庭の機能、新しい生命の誕生について理解を深める。 ・保健行政の施策・保険活動、医療制度の仕組みやサービス、医薬品を安全に使用するための知識について理解する。
2 学期	2章【生涯を通じる健康】 第1節 環境と健康 第2節 環境と食品の健康 第3節 労働と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちが取り巻く環境についての歴史、近年の人間活動による汚染の急増、地球環境問題などについて理解し、解決に向けた対策について理解する。 ・労働と健康の関わりについて理解を深める。 ・食品による健康被害の種類、被害を防止するために行われている施策について理解する。 ・労働者の健康・安全をまもるために、わが国で行われている施策について知るとともに、自らが取るべき対策についても理解する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習
教科書	『高等学校保健体育』(第一学習社)
副教材	保健体育ノート(第一学習社)
評価の方法	定期試験と平常点(課題の内容・提出状況、授業態度)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
コミュニケーション英語Ⅱ,Ⅲ	4 時間

目 標	Ⅱにおいては、英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。 Ⅲにおいては、Ⅱで伸ばした能力を社会生活において活用できるようにする。 全過程を通じて、大学が求める英語運用能力を伸ばす。	
育 っ たい 力	知識 技能	まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から情報を得ることができる。 日常生活についてのまとまりのある内容を理解することができる。 ある程度の話や会話を聞いて、主題と詳細情報を区別して理解できる。
	思考 判断 表現	書き手の意図を理解して、自分の意見と比較しながら批判的に読むことができる。 日常生活の話題についてある程度まとまりのある文章を書くことができる。 自分の意見や感想を論理的に整理し、複数の段落で書くことができる。
	主体性 協働性 多様性	日常生活の出来事を説明したり、用件を伝えたりすることができる。 なじみのある話題について、新たな質問を思いつくなどして話題を発展させることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> •Chanel's Style •Science of Love •Gaudi and His Messenger •Letters from a Battlefield •Edo: A Sustainable Society •AI and Our Future •Bhutan: A Happy Country 	以下の事項を理解し、活用できるようになる。 ・S+V+分詞 / S+V+O+分詞 ・付帯状況を表すwith+O+C ・同格のthat節 ・疑問詞+ do you think (+S) +V? ・関係副詞の非限定用法 ・if節を用いない仮定法 ・譲歩を表す複合関係詞 ・動名詞の意味上の主語 ・関係代名詞の非限定用法 ・独立分詞構文 ・as if[though]+仮定法 ・助動詞+have+過去分詞 ・強調構文 ・副詞節中の<S+be>の省略
2 学期	English Communication III ・L1Caffeine: The World's Favorite Drug ・L2Blood Is Blood ・L3Australia and its Creatures ・L4The \$100,000 Salt and Pepper Shaker ・L5Bilingual Effects in the Brain ・L6Communication without Words ・L7Political Correctness	以下のテーマについて、円滑なコミュニケーション活動ができるようになる。 <健康・科学> <人権> <環境・生物> <人生・生き方> <脳科学> <コミュニケーション> <社会問題>

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『Revised Landmark English Communication Ⅱ・Ⅲ』(啓林館)
副教材	Revised Landmark English Communication Ⅱ・Ⅲ 予習ノート(啓林館) Vision Quest総合英語(啓林館) システム英単語(駿台文庫)
評価の方法	定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	予習ノートの全ページの問題と答え、教科書の課末問題や小テスト問題を全て理解している
	60%	予習ノートの全ページの問題と答えを理解している

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
英語表現Ⅱ	2 時間

目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。	
	知識技能	いろいろなトピックについて、内容を理解することができる。 学習した文法を理解し、知識として定着させている。 つなぎの言葉を使って文章を書くことができる。 パラグラフの構成に基づいて文章を書くことができる。
	思考判断表現	与えられた状況において、適切に話し、伝えることができる。 適切な発声で、プレゼンテーションを行うことができる。 自らの意見を、適切な表現を用いて伝えることができる。 発表者や発言者の言ったことを、正しく聞き取れる。
	主体性協働性多様性	モデル会話に関心を持ち、聞き、発話しようとしている。 間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。 積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	Part 1 ・L1伝統行事がいくつもあるのね。 ・L2職業体験はどうだった？ ・L3話したいことがあるんだ。 ・L4航空管制官として働きたいんだ。 ・L5そんな経験をもう一度したいわ。 ・L6これはカナダのバンクーバーで撮った写真なんだ。 ・L7携帯電話は私たちの生活になくてはならないもの？ ・L8犬と猫どっちが好き？ Part 2 ・L1ロボットの有用性 ・L2英語を学ぶ意義 ・L3都会と田舎 ・L4若者の本離れ ・L5ベジタリアン	以下の事項を確実に理解する。また、自己表現にも活用し、その内容についてクラスメートと英語でやり取りを行うことができるようになる。 ・文の種類 ・使役動詞／知覚動詞 ・仮定法／完了形 ・助動詞／修飾／関係副詞 ・副詞句・節／比較 ・パラグラフの構成／列挙・順序 ・例示・追加／比較・対照 ・原因・理由／結果／要点・要約
2 学期	Part 3 ・L1プレゼンテーション ・L2ディスカッション ・L3ディベート	以下についての基本ルールを理解し、人前で発表したりクラスメートと討論できるようになる。 ・プレゼンテーション ・ディスカッション ・ディベート

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『Vision Quest English Expression II hope』(啓林館)
副教材	Vision Quest English Expression II hope WORKBOOK (啓林館) Vision Quest総合英語2nd Edition (啓林館) スランブル英文法 4th Edition(旺文社)
評価の方法	定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書のExercises・WORKBOOKのPractice問題の完全理解
	60%	教科書のExercises問題をすべて解くことができる

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
英語研究①(設定)	2 時間

目 標	様々な場面設定の中で、学んだことを実際に活用するにはどうすればよいのかを学ぶ。英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。言語の使用場面に応じた適切な表現を選択し、英語を通して自己表現する能力の向上を図る。英語理解の根幹としての発音、リスニング、文法の基本事項の定着を図る。国際社会に通用する英語運用能力を養う。	
育 っ た い 力	知識技能	表現の基礎となる文法事項を理解し、さまざまな話題やテーマについての英語を読んだり聞いたりして、情報や考えなどを理解することができる。また英語の学習を通して、言語や文化についての知識を身につけ、さまざまなテーマについての理解を深め、自らの考えを発信することができる。
	思考判断表現	さまざまな話題やテーマについて、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして、適切に表現することができる。問いかけに対し即時応答することができる。
	主体性協働性多様性	コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で言語活動に参加することで、自己を表現したり、他者とのコミュニケーションを図ろうと努力している。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	UNIT1 What is the value of time? UNIT2 What do we remember? UNIT3 How do we know what's the best? UNIT4 How do groups work together? UNIT5 What do we need to survive?	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面設定の中で、授業で学んだ各項目を含む表現を実際に聞き、考え、話し、書く経験をする。 ・英語を通じたコミュニケーションができる体験をすることで、更なる探究心を生じさせる。 ・自分の考えを英語でまとめる。 ・相手の考えを理解し、同意、あるいは反論などの意見を話すことができるようにする。 ・グループディスカッションの中で自分の考えを他者に伝えることができる。
2 学期	UNIT6 How can we live with less? UNIT7 What is intelligence? UNIT8 How can we stay healthy? UNIT9 Why do we tell stories? UNIT 10 What makes a good place to live?	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面設定の中で、授業で学んだ各項目を含む表現を実際に聞き、考え、話し、書く経験をする。 ・英語を通じたコミュニケーションができる体験をすることで、更なる探究心を生じさせる。 ・自分の考えを英語でまとめる。 ・相手の考えを理解し、同意、あるいは反論などの意見を話すことができるようにする。 ・グループディスカッションの中で自分の考えを他者に伝えることができる。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
主たる教材	「Futures 1」(OXFORD UNIVERSITY PRESS)
副教材	Vision Quest総合英語(啓林館)
評価の方法	定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	「Future 1」の各課の内容を理解し、各課のトピックに関する自分の意見を客観視しながら表現することができる。
	60%	「Future 1」の各課の内容を大まかに理解し、各課のトピックに関する自分の意見を表現することができる。

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
聖書(設定)	1 時間

目 標	人類の遺産である聖書の基本的知識及び価値観を学び、グローバル社会で公共の精神に生きる力を育てる。	
育 っ たい 力	知識 技能	歴史的、社会的背景を踏まえて本文を正しく理解する。 2000年の歴史を経ての今日的意義を探究する。
	思考 判断 表現	自分も含めた様々な人々から社会が形成されていることを知り、いかに共生するかを考える。 神の前で人間は有限であるが、同時に有意味である自己肯定感を促す。
	主体性 協働性 多様性	異なった考えを積極的に捉え、これまでの自分の価値観と対比し生きる糧とする。 仲間と聖書を読み合うことで、全体の共同性を確認する。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教史を学ぶ意味 ・キリスト教の源 ・時のみちるにおよんで ・信仰の戦い 	<ul style="list-style-type: none"> ・聖書を学ぶ、必要性を知る。 ・伝統の中に多くの人々の犠牲と奉仕があることを知る。 ・3校祖と3L精神を学び、学院生としての自覚を促す。 ・教会の礼拝と、学校の礼拝の違いを知る。 ・イエス・キリストの生涯と、新約聖書の概観を知る。 ・無意識で取り組んでいた日本の「宗教」を理解する。 ・本来あるべき、神との関係性について知る。 ・本来あるべき、隣人との関係性について知る。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・教会の基礎づくり ・世俗の権力と結ばれた教会 ・新しい時代の準備 ・皇帝の上に立つ教皇 ・聖地に向かう十字軍の騎士 	<ul style="list-style-type: none"> ・聖典と信条の成立。 ・公会議開催による成立過程。 ・修道院の設立。 ・教会と国家との関係。 ・権力集中の中での聖地奪還。

授業の形態	一斉授業
主たる教材	聖書
副教材	なし
評価の方法	定期試験、提出物、小テストによる総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
3L希望学	1 時間

目 標	ESDとキャリア学習を通して、主体的、創造的、協働的に課題に取り組む力を育み、加えて未来を展望して、自らの使命を考える。	
育 っ て たい 力	知識 技能	世界にある様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの解決につながる新たな価値観、行動を生み出すこと、それによって持続可能な社会の創り手となることができるように教科学習や探究活動を通して得た知識を組み合わせることができる力を養う。
	思考 判断 表現	クラスやグループごとに仮説を立案し、その検証のために調査し、討議し、まとめ、発表し、行動する学習活動を通して、探究する力を養う。
	主体性 協働性 多様性	誰も置き去りにしない社会を作るためには、何が必要か、どうしたらよいか、自分に何ができるかを級友たちと協働的・探究的に学ぶことを通して、社会の中での自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく力を養う。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学期	「課題研究」 「進路研究」	副教材を用いて、まち・社会をつくるリアルな課題解決を題材に、未来について探究しながら、探究のスキルを身につける。 オープンキャンパスへの参加や外部講師の方の講演会への参加、講義動画の視聴等を通して、自らの興味関心や向き合いたい社会課題と関連付けて学びたい学問や学べる大学についての理解を深める。
2 学期	「課題研究」 「平和学習」 「進路研究」	個人の興味関心に応じて課題を設定し、課題探究を進め、プレゼンテーションにまとめ発表する。 研修旅行の事前学習などを通して、過去の大戦の状況や背景についての理解を深め、「平和と公正をすべての人に」もたらすために自分たちに何ができるかについて級友たちと協働して考える。 社会と求められる役割の大きな変化の中で、世界規模で横たわる課題にどのように向き合い、その解決のためにどのように役割を果たすかを踏まえて取り組む学問と学べる大学とを定め、その考えを志望理由書に表現する。

授業の形態	一斉授業 講演 グループ学習 ワークショップ 個人の探究活動
教科書	なし
副教材	「100年を創造するチカラ」(鹿島建設)
評価の方法	学習記録、報告・作品(レポート、発表など)の内容や提出状況、ルーブリックによる自己評価・相互評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	なし
	②小テスト	なし
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	自分の興味関心と社会のあり方の関係について考え続ける態度を理想とする